

刈谷市の環境に関する市民意識調査 調査結果報告

目 次

0. 調査の概要	1
(1) 調査方法、回収率等	1
(2) 個人属性等	1
年齢	1
居住地	1
1. 環境問題への意識や関心について	2
問1 近年の環境の状況についての実感 (SA)	2
問2 関心のある環境問題 (MA)	4
問3 重点的に取り組むべきだと思う環境問題 (MA)	6
問4 外来生物の認知度 (MA)	8
2. 本市の環境対策について	9
問5-1 本市の環境の取組に対する満足度 (SA)	9
問5-2 本市の環境の取組の重要度 (SA)	10
3. 環境問題に対する取り組み状況	11
問6 「環境に良い取り組み」の実施状況 (SA)	11
問7 「環境に良い取り組み」を積極的に行うために必要なこと (MA)	15
問8 近年、環境に配慮した行動をするようになったきっかけ (MA)	15
問9 環境を守る上で最も重要な役割を担う主体 (SA)	16
問10-1 環境保護団体や地域の団体の環境保全に関する活動への取組経験	17
取組経験の有無 (SA)	17
取り組んだことのある活動領域 (MA)	17
問10-2 環境保護団体や地域の団体の環境保全に関する活動への今後の取組意向	18
今後の取り組み意向 (SA)	18
取り組みたい活動領域 (MA)	18
問11 自宅での太陽光発電設備の設置状況 (SA)	19
問12 次世代自動車の保有状況 (MA)	19
問13 環境問題に対する考えや意見 (SA)	20
問14 市に期待する将来の環境像 (MA：最大で3つまで)	23

0. 調査の概要

(1) 調査方法、回収率等

- 調査方法と回収率等を下表に示します。
- 回収率は 54.5%となりました。

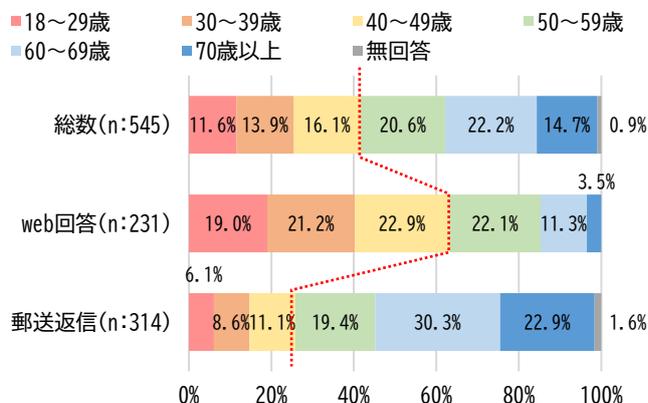
調査方法、回収率

調査方法	住民基本台帳による 18 歳以上の刈谷市内在住の市民を対象として無作為抽出 郵送での調査票発送 調査票記載の URL・二次元バーコードからの web フォームでの回答、または郵送返信による回収
調査期間	令和 5 年 11 月 3 日 (金) ~令和 5 年 11 月 17 日 (金)
発送数	1,000 件
回収数	545 件 (回収率 54.5%) うち web 回答 : 231 件 郵送返信 : 314 件

(2) 個人属性等

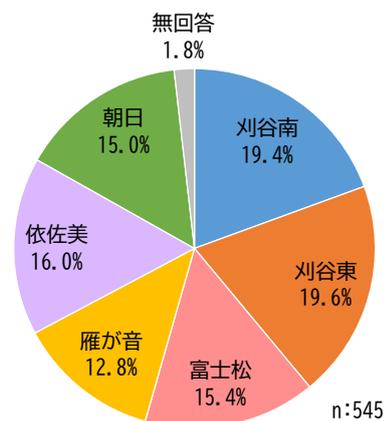
年齢

- 回答者の年齢は「60～69 歳」が 22.2%と最も多く、次いで「50～59 歳」が 20.6%となっています。
- web 回答では 50 歳未満の年齢層の割合が高く、郵送返信では 50 歳以上の割合が高くなる傾向がみられました。



居住地

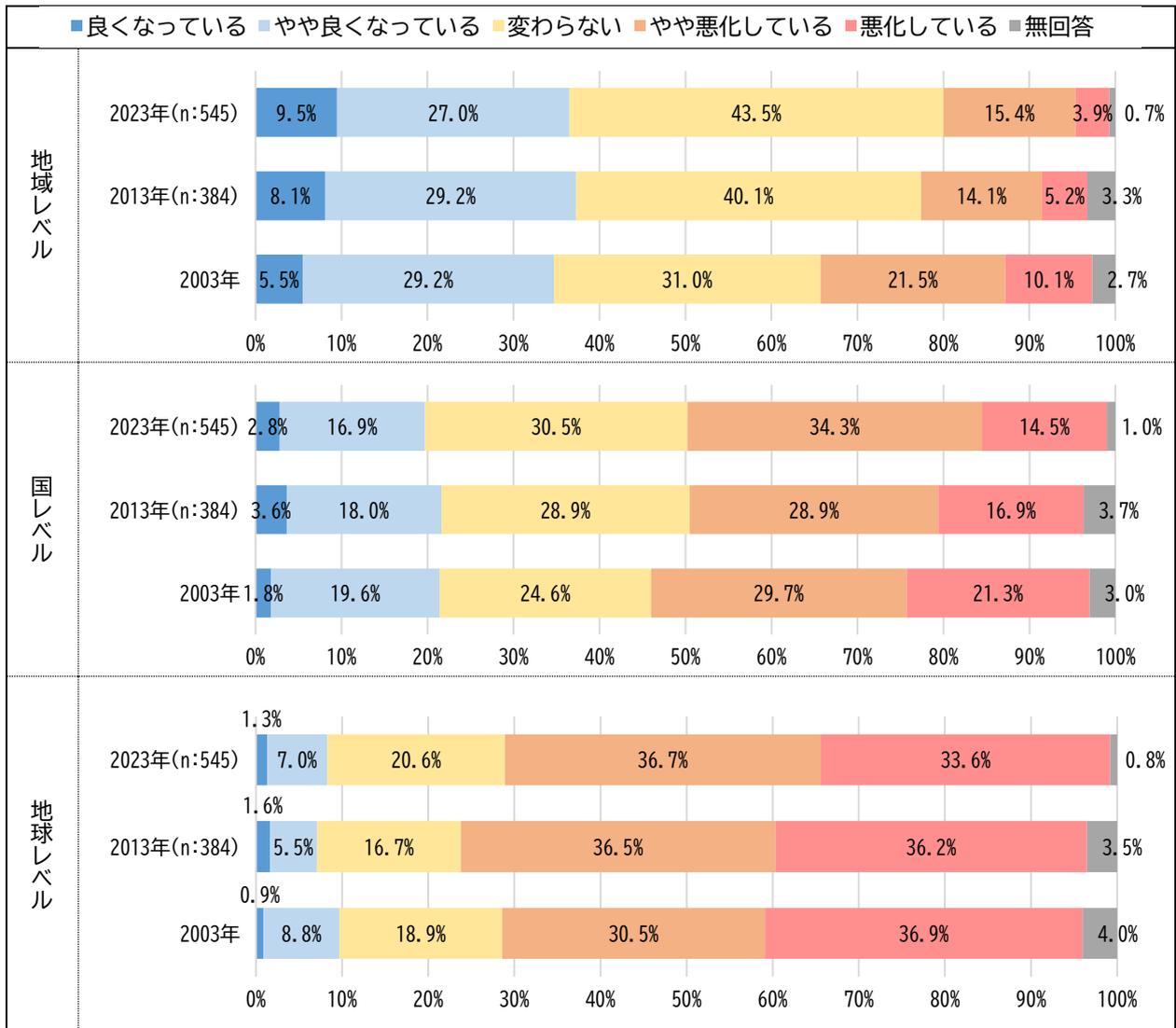
- 居住地は各地域で 10～20%程度の割合となっています。



1. 環境問題への意識や関心について

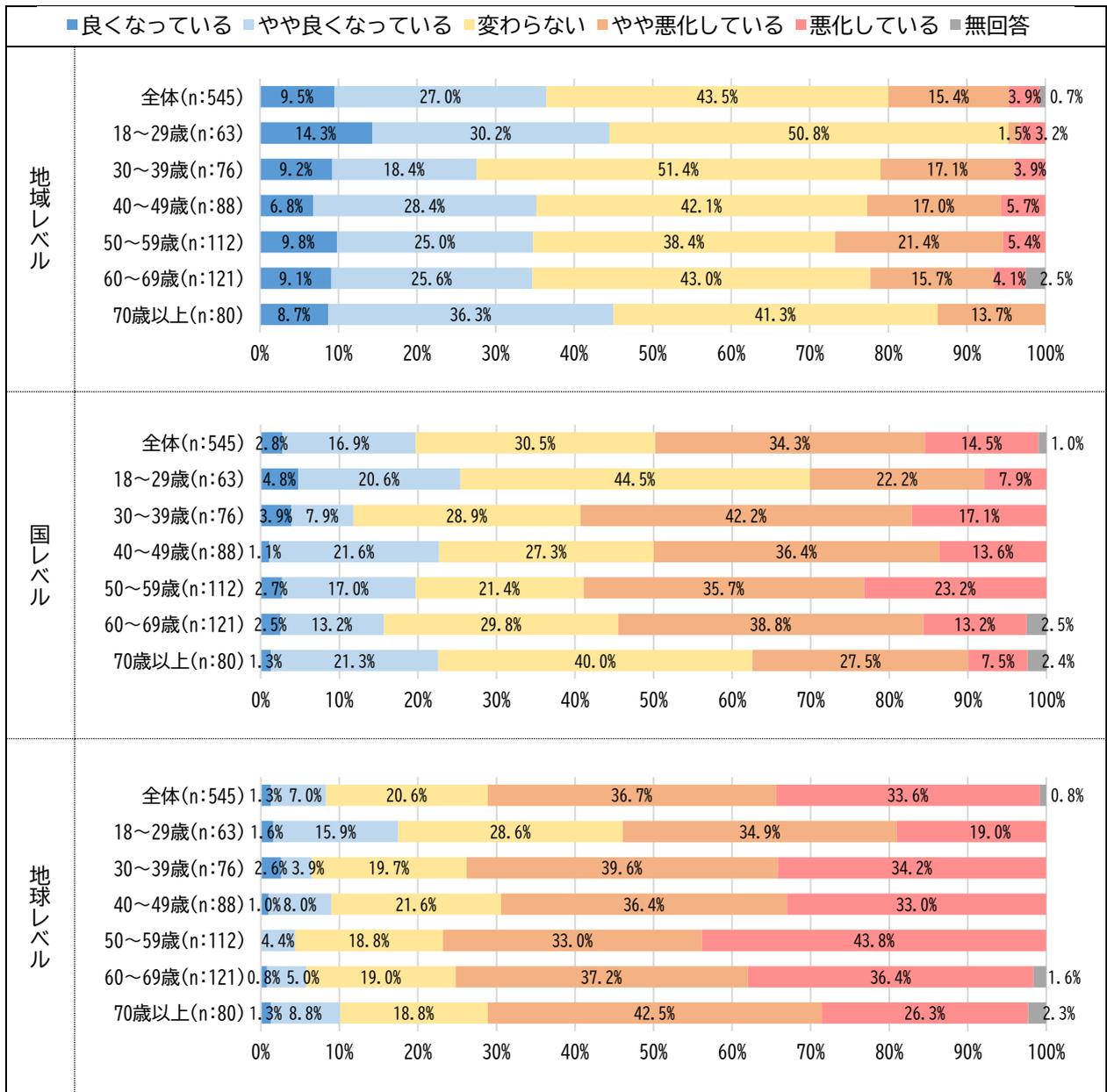
問1 近年の環境の状況についての実感 (SA)

- 「良くなっている」と「やや良くなっている」の合計値は、地域レベルでは36.5%、国レベルでは19.7%、地球レベルでは8.3%とより大きなレベルになるほど評価が悪くなる傾向がみられます。
- 「良くなっている」と「やや良くなっている」の合計値は、2013年度と比べて、地域レベルと国レベルでは減少し、地球レベルでは増加しています。



- 年齢別では18～29歳は「良くなっている」と「やや良くなっている」の割合が他の年齢層と比べて高く、30～39歳は低い傾向がみられます。

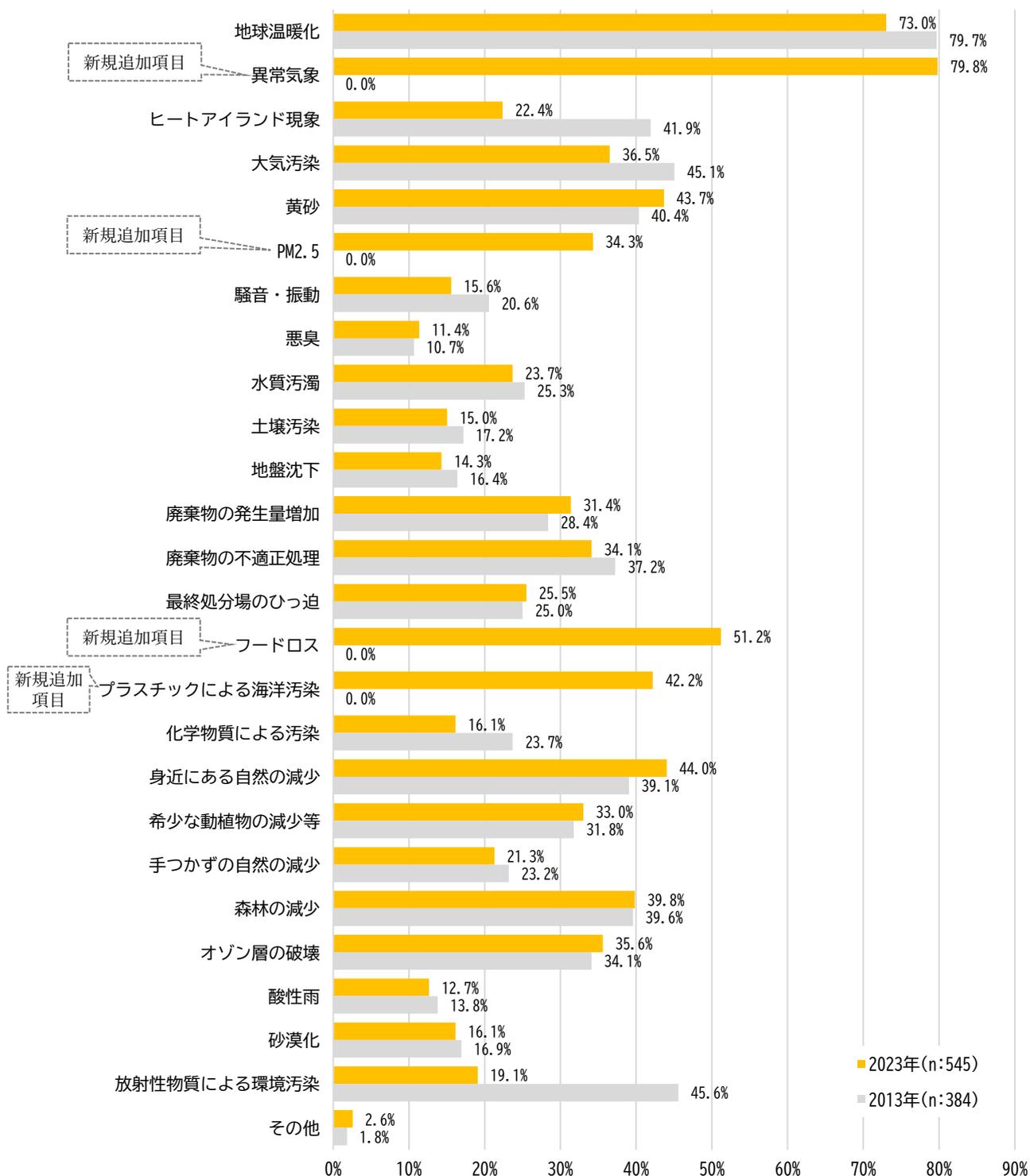
【年齢別の「環境に良い取り組み」の実施状況】



※ 総回答者数 545 名のうち、年齢について無回答とした 5 名は年齢層別の集計結果から除外している。

問2 関心のある環境問題 (MA)

- 関心のある環境問題では、「異常気象」や「地球温暖化」が多く回答されています。
- 2013年度と同様に「地球温暖化」に関心のある人が多くみられます。
- 2013年度と比べて「ヒートアイランド現象」や「放射性物質による環境汚染」への関心は低下しています。



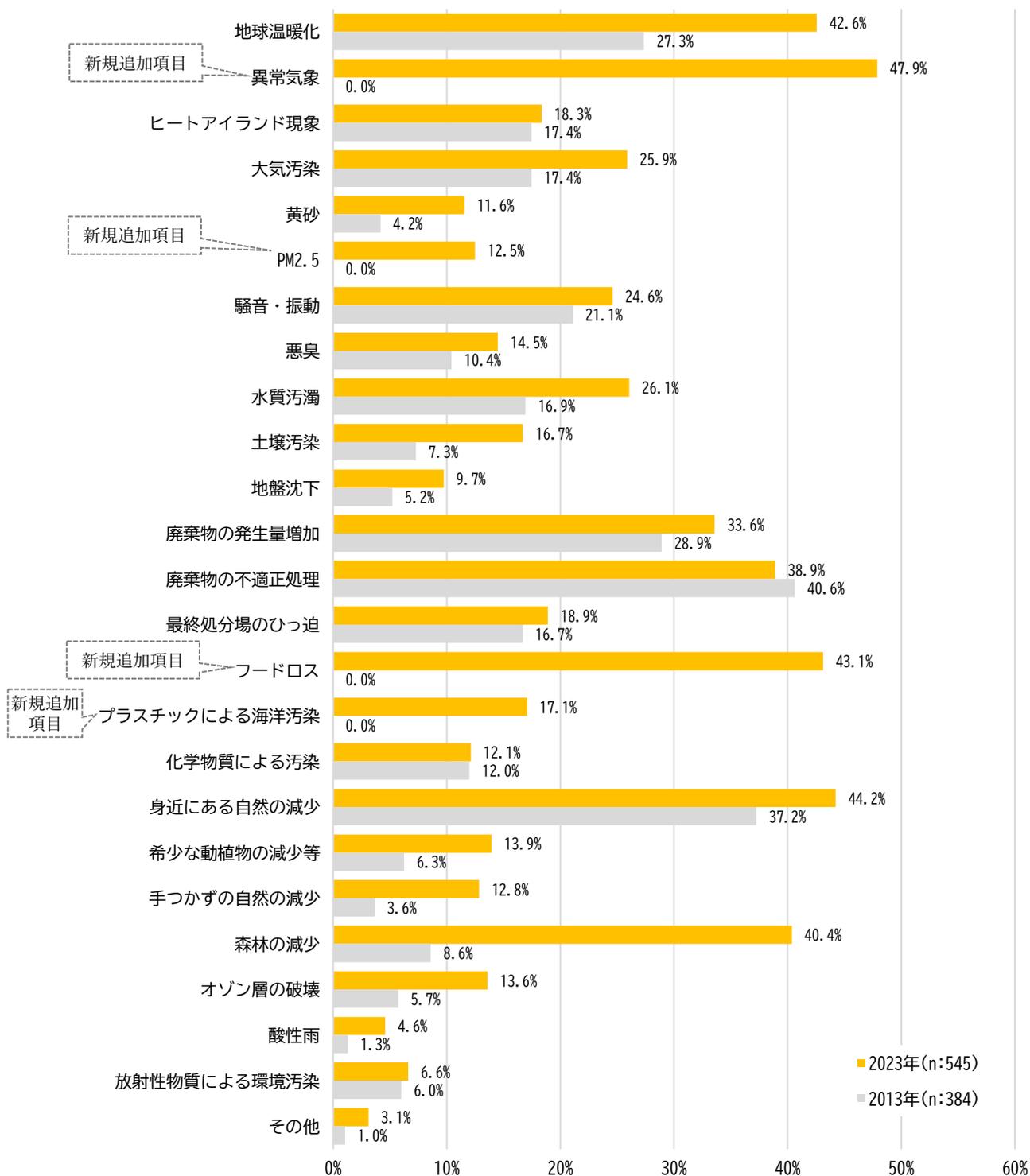
- 年齢別では、「異常気象」への関心が18～29歳が他の年齢層と比べて低いことや「廃棄物の不適正処理」や「プラスチックによる海洋汚染」などのごみの問題、「身近にある自然の減少」、「オゾン層の破壊」など若年層の関心が低い環境問題が多くみられました。

	全体 (n:545)	18～29歳 (n:63)	30～39歳 (n:76)	40～49歳 (n:88)	50～59歳 (n:112)	60～69歳 (n:121)	70歳以上 (n:80)
地球温暖化	73.0%	71.4%	61.8%	68.2%	81.3%	75.2%	78.8%
異常気象	79.8%	55.6%	80.3%	84.1%	86.6%	82.6%	81.3%
ヒートアイランド現象	22.4%	15.9%	21.1%	25.0%	30.4%	19.0%	18.8%
大気汚染	36.5%	27.0%	36.8%	34.1%	31.3%	35.5%	55.0%
黄砂	43.7%	31.7%	43.4%	46.6%	46.4%	47.1%	42.5%
PM2.5	34.3%	20.6%	30.3%	34.1%	41.1%	37.2%	35.0%
騒音・振動	15.6%	19.0%	21.1%	18.2%	6.3%	12.4%	20.0%
悪臭	11.4%	14.3%	17.1%	10.2%	7.1%	12.4%	7.5%
水質汚濁	23.7%	25.4%	19.7%	19.3%	19.6%	30.6%	26.3%
土壌汚染	15.0%	6.3%	7.9%	10.2%	16.1%	24.0%	20.0%
地盤沈下	14.3%	11.1%	13.2%	9.1%	13.4%	13.2%	27.5%
廃棄物の発生量増加	31.4%	30.2%	18.4%	25.0%	30.4%	38.0%	43.8%
廃棄物の不適正処理	34.1%	15.9%	22.4%	27.3%	32.1%	45.5%	52.5%
最終処分場のひっ迫	25.5%	19.0%	25.0%	20.5%	30.4%	23.1%	33.8%
フードロス	51.2%	49.2%	50.0%	44.3%	55.4%	53.7%	51.3%
プラスチックによる海洋汚染	42.2%	27.0%	27.6%	29.5%	42.9%	53.7%	62.5%
化学物質による汚染	16.1%	11.1%	9.2%	11.4%	17.0%	17.4%	28.8%
身近にある自然の減少	44.0%	27.0%	32.9%	39.8%	41.1%	47.9%	70.0%
希少な動植物の減少等	33.0%	28.6%	35.5%	33.0%	34.8%	38.0%	26.3%
手つかずの自然の減少	21.3%	12.7%	15.8%	12.5%	24.1%	33.1%	20.0%
森林の減少	39.8%	34.9%	21.1%	30.7%	40.2%	48.8%	56.3%
オゾン層の破壊	35.6%	23.8%	30.3%	35.2%	37.5%	39.7%	40.0%
酸性雨	12.7%	9.5%	15.8%	8.0%	10.7%	16.5%	15.0%
砂漠化	16.1%	12.7%	11.8%	17.0%	9.8%	24.0%	20.0%
放射性物質による環境汚染	19.1%	7.9%	13.2%	19.3%	22.3%	21.5%	25.0%
その他	2.6%	1.6%	1.3%	1.1%	3.6%	3.3%	3.8%

※ 総回答者数 545 名のうち、年齢について無回答とした 5 名は年齢層別の集計結果から除外している。

問3 重点的に取り組むべきだと思う環境問題 (MA)

- 本市において重点的に取り組むべきだと思う環境問題では、「地球温暖化」や「異常気象」、「フードロス」、「身近にある自然の減少」、「森林の減少」などが多く回答されました。
- 2013年度に比べて「地球温暖化」や「大気汚染」、「森林の減少」について重視する人が増えています。



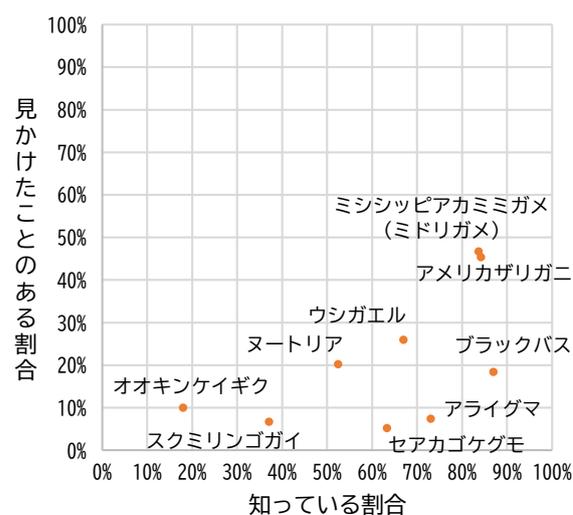
- 年齢別では「森林の減少」や「手つかずの自然の減少」など、多くの項目で、年齢が高くなるほど重点的に取り組むべきだとする回答が多くみられる傾向がありました。
- 「騒音・振動」と「悪臭」は若年層の方が高齢層より回答が多い傾向がみられます。

	全体 (n:545)	18~29歳 (n:63)	30~39歳 (n:76)	40~49歳 (n:88)	50~59歳 (n:112)	60~69歳 (n:121)	70歳以上 (n:80)
地球温暖化	42.6%	39.7%	28.9%	38.6%	42.0%	50.4%	51.3%
異常気象	47.9%	23.8%	38.2%	47.7%	52.7%	47.9%	71.3%
ヒートアイランド現象	18.3%	12.7%	11.8%	22.7%	18.8%	19.8%	21.3%
大気汚染	25.9%	11.1%	23.7%	13.6%	28.6%	31.4%	41.3%
黄砂	11.6%	7.9%	10.5%	9.1%	9.8%	12.4%	20.0%
PM2.5	12.5%	4.8%	11.8%	4.5%	15.2%	14.9%	20.0%
騒音・振動	24.6%	30.2%	34.2%	22.7%	22.3%	22.3%	20.0%
悪臭	14.5%	19.0%	19.7%	12.5%	11.6%	17.4%	8.8%
水質汚濁	26.1%	23.8%	21.1%	21.6%	27.7%	28.1%	31.3%
土壌汚染	16.7%	4.8%	10.5%	18.2%	16.1%	18.2%	27.5%
地盤沈下	9.7%	1.6%	10.5%	4.5%	13.4%	9.1%	17.5%
廃棄物の発生量増加	33.6%	19.0%	23.7%	22.7%	38.4%	45.5%	42.5%
廃棄物の不適正処理	38.9%	25.4%	34.2%	35.2%	35.7%	47.9%	48.8%
最終処分場のひっ迫	18.9%	11.1%	17.1%	19.3%	17.0%	23.1%	23.8%
フードロス	43.1%	36.5%	43.4%	33.0%	47.3%	52.9%	40.0%
プラスチックによる海洋汚染	17.1%	4.8%	6.6%	10.2%	16.1%	23.1%	33.8%
化学物質による汚染	12.1%	4.8%	5.3%	12.5%	8.0%	14.9%	23.8%
身近にある自然の減少	44.2%	19.0%	30.3%	36.4%	45.5%	58.7%	60.0%
希少な動植物の減少等	13.9%	9.5%	13.2%	11.4%	13.4%	13.2%	22.5%
手つかずの自然の減少	12.8%	11.1%	3.9%	10.2%	14.3%	14.9%	20.0%
森林の減少	40.4%	19.0%	22.4%	30.7%	44.6%	52.1%	61.3%
オゾン層の破壊	13.6%	4.8%	9.2%	9.1%	13.4%	17.4%	22.5%
酸性雨	4.6%	0.0%	3.9%	3.4%	5.4%	4.1%	10.0%
放射性物質による環境汚染	6.6%	4.8%	2.6%	5.7%	4.5%	8.3%	13.8%
その他	3.1%	1.6%	2.6%	1.1%	3.6%	5.0%	3.8%

※ 総回答者数 545 名のうち、年齢について無回答とした 5 名は年齢層別の集計結果から除外している。

問4 外来生物の認知度 (MA)

- 外来生物の認知度では「ミシシippアカミミガメ (ミドリガメ)」や「アメリカザリガニ」が知っている割合も市内で見かけたことのある割合も高くなっています。
- 「オオキンケイギク」は他の外来生物に比べて認知度が非常に低く、特に若年層ほど知らない傾向があります。



①知っている外来生物

	全体 (n:545)	18~29歳 (n:63)	30~39歳 (n:76)	40~49歳 (n:88)	50~59歳 (n:112)	60~69歳 (n:121)	70歳以上 (n:80)
ミシシippアカミミガメ (ミドリガメ)	83.7%	82.5%	82.9%	80.7%	89.3%	86.8%	76.3%
ブラックバス	87.0%	87.3%	88.2%	85.2%	92.0%	88.4%	78.8%
ウシガエル	67.0%	69.8%	72.4%	65.9%	74.1%	63.6%	55.0%
アライグマ	73.0%	74.6%	67.1%	67.0%	77.7%	77.7%	70.0%
セアカゴケグモ	63.3%	44.4%	69.7%	68.2%	78.6%	65.3%	43.8%
オオキンケイギク	18.0%	3.2%	9.2%	19.3%	17.0%	25.6%	26.3%
ヌートリア	52.5%	39.7%	42.1%	54.5%	60.7%	57.9%	51.3%
スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	37.1%	41.3%	38.2%	45.5%	40.2%	32.2%	28.8%
アメリカザリガニ	84.2%	85.7%	89.5%	80.7%	86.6%	84.3%	78.8%
その他	3.7%	3.2%	2.6%	1.1%	6.3%	5.0%	2.5%

※ 総回答者数 545 名のうち、年齢について無回答とした 5 名は年齢層別の集計結果から除外している。

②市内で見かけたことのある外来生物

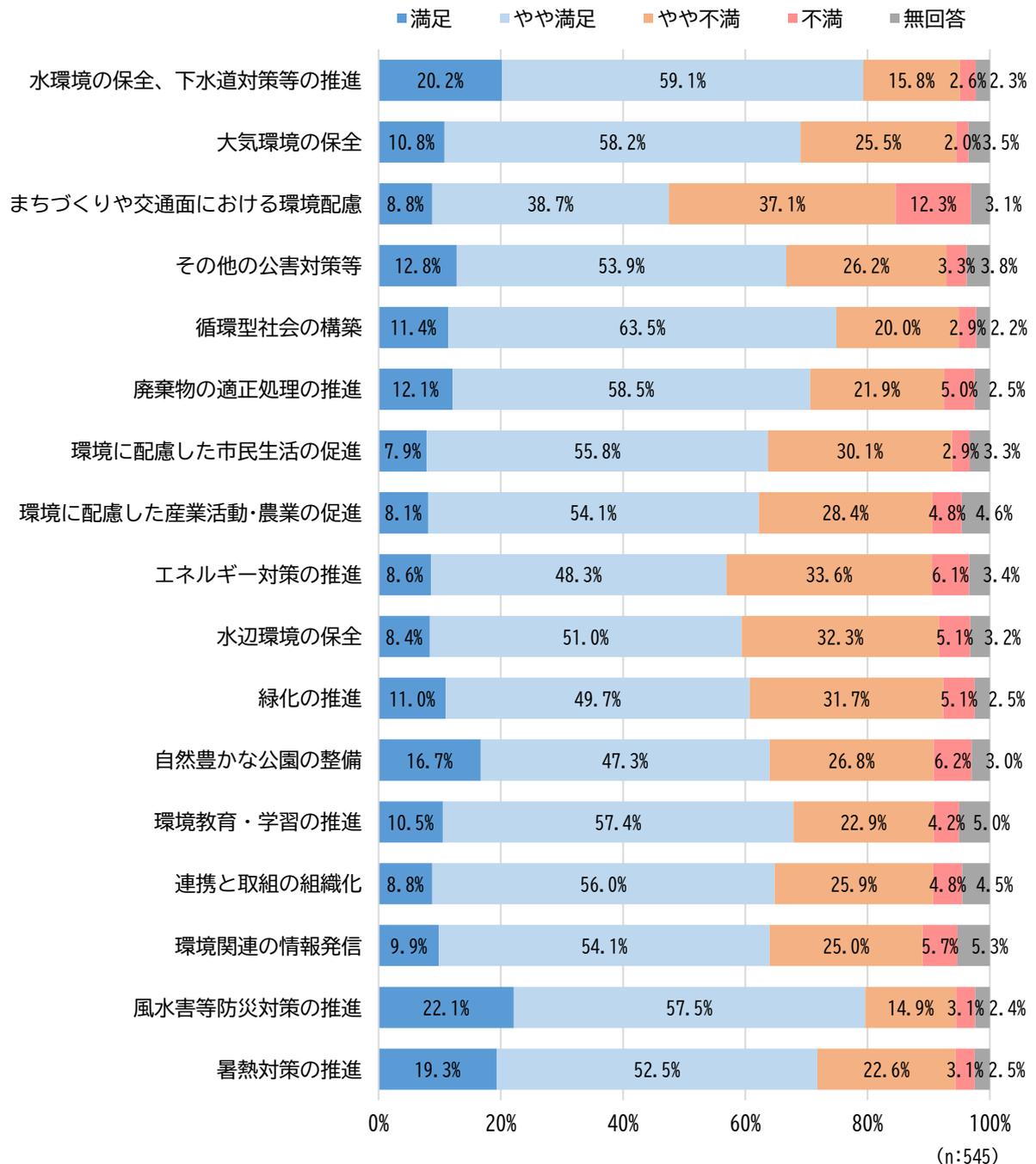
	全体 (n:545)	18~29歳 (n:63)	30~39歳 (n:76)	40~49歳 (n:88)	50~59歳 (n:112)	60~69歳 (n:121)	70歳以上 (n:80)
ミシシippアカミミガメ (ミドリガメ)	46.6%	34.9%	32.9%	46.6%	53.6%	52.1%	51.3%
ブラックバス	18.3%	6.3%	15.8%	22.7%	20.5%	18.2%	22.5%
ウシガエル	25.9%	12.7%	30.3%	27.3%	23.2%	29.8%	28.8%
アライグマ	7.3%	4.8%	3.9%	9.1%	8.9%	7.4%	8.8%
セアカゴケグモ	5.1%	3.2%	10.5%	4.5%	5.4%	5.0%	1.3%
オオキンケイギク	9.9%	0.0%	0.0%	9.1%	8.0%	19.0%	16.3%
ヌートリア	20.2%	9.5%	15.8%	22.7%	19.6%	27.3%	18.8%
スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	6.6%	6.3%	11.8%	8.0%	5.4%	4.1%	6.3%
アメリカザリガニ	45.3%	34.9%	36.8%	45.5%	43.8%	52.1%	52.5%
その他	2.6%	1.6%	0.0%	3.4%	2.7%	3.3%	3.8%

※ 総回答者数 545 名のうち、年齢について無回答とした 5 名は年齢層別の集計結果から除外している。

2. 本市の環境対策について

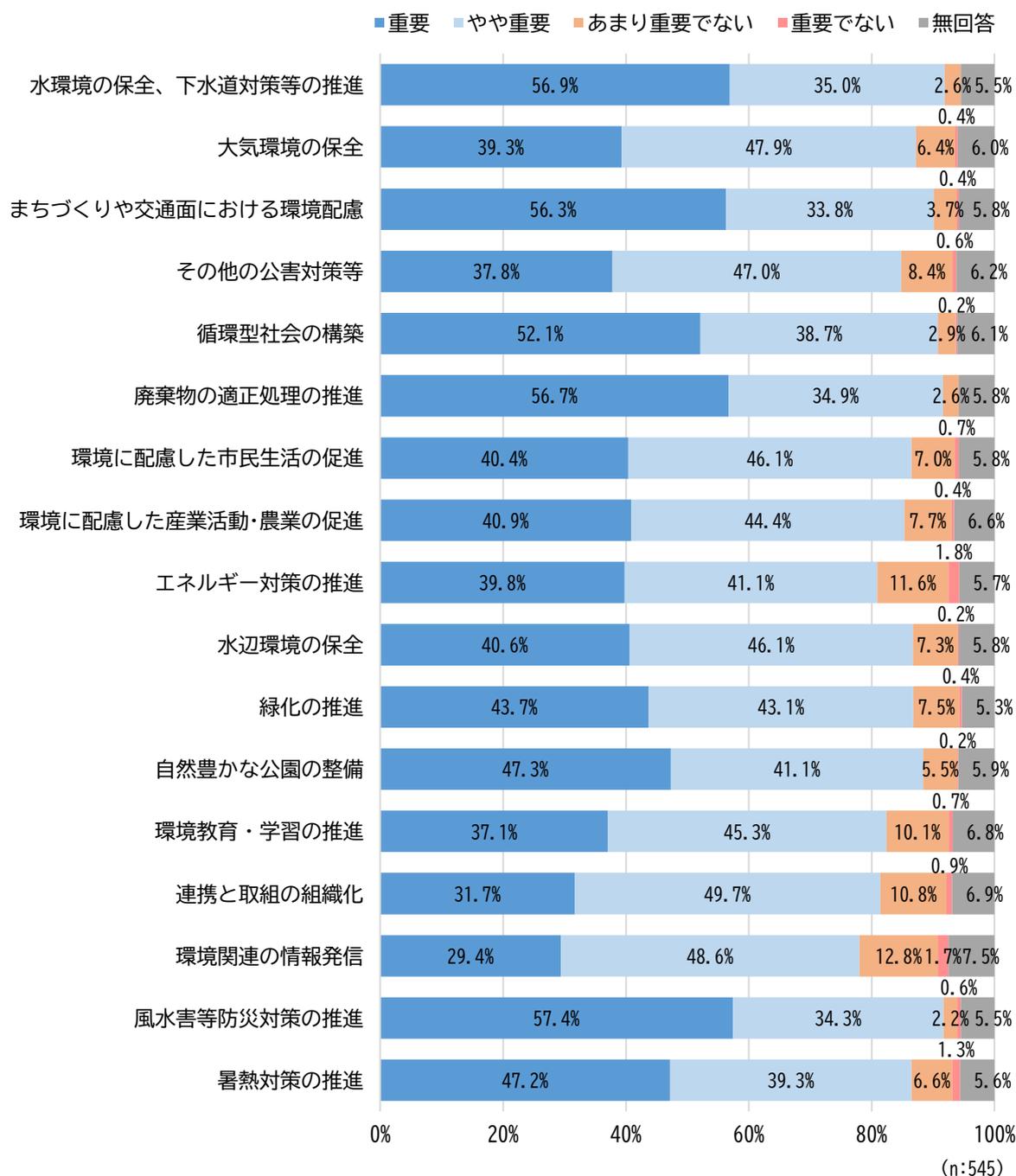
問5-1 本市の環境の取組に対する満足度（SA）

- 本市の環境に対する取組では、「水環境の保全、下水道対策等の推進」や「風水害等防災対策の推進」の満足度が高い一方で、「まちづくりや交通面における環境配慮」や「エネルギー対策の推進」の満足度が低くなっています。



問5-2 本市の環境の取組の重要度 (SA)

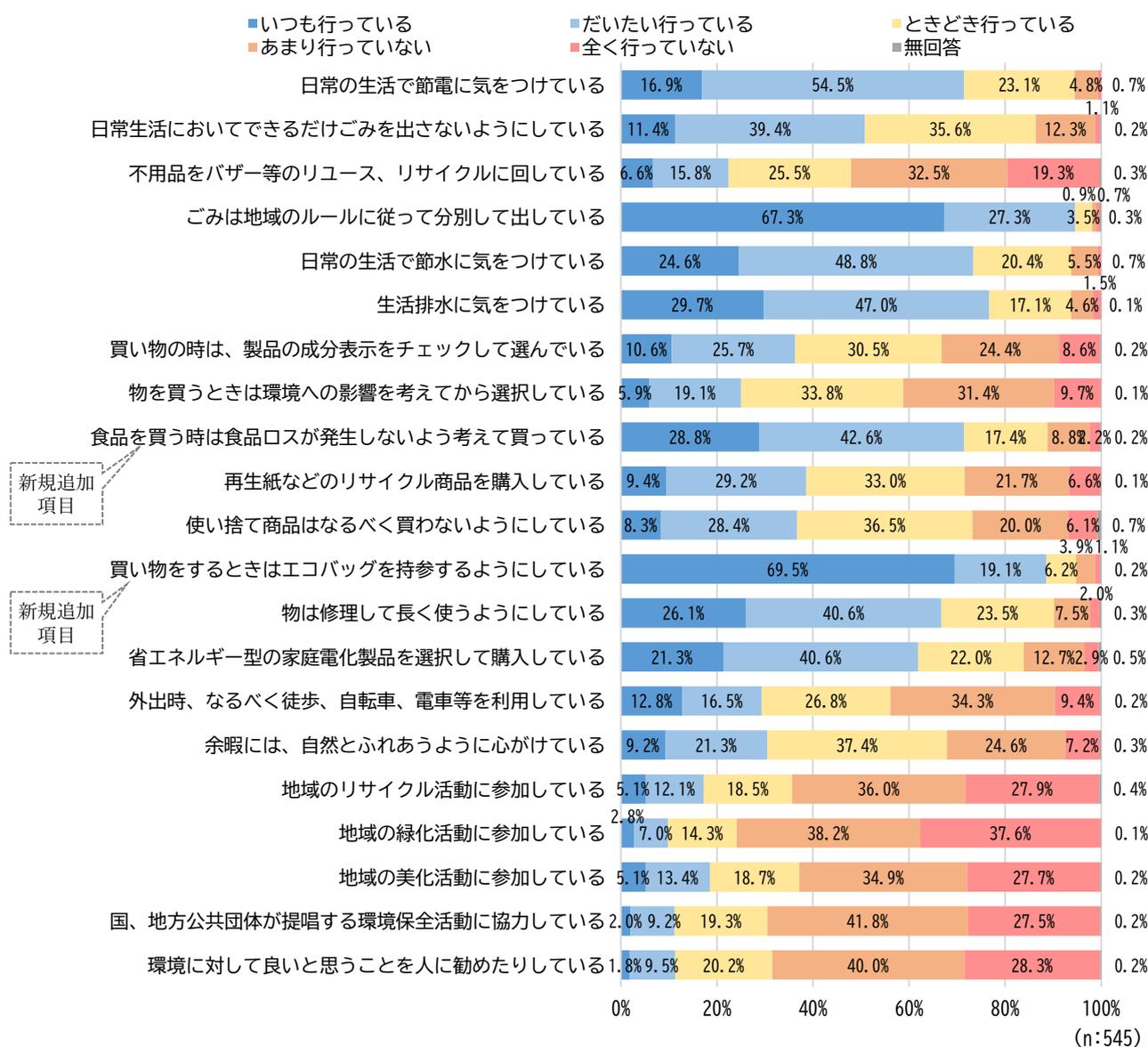
- 本市の環境に対する取組では、「環境関連の情報発信」以外の取組は「重要」と「やや重要」の合計値が80%以上となっています。
- 中でも「水環境の保全、下水道対策等の推進」や「廃棄物の適正処理の推進」、「風水害等防災対策の推進」といった生活の利便性や安全性に関わる取り組みが特に重視されています。



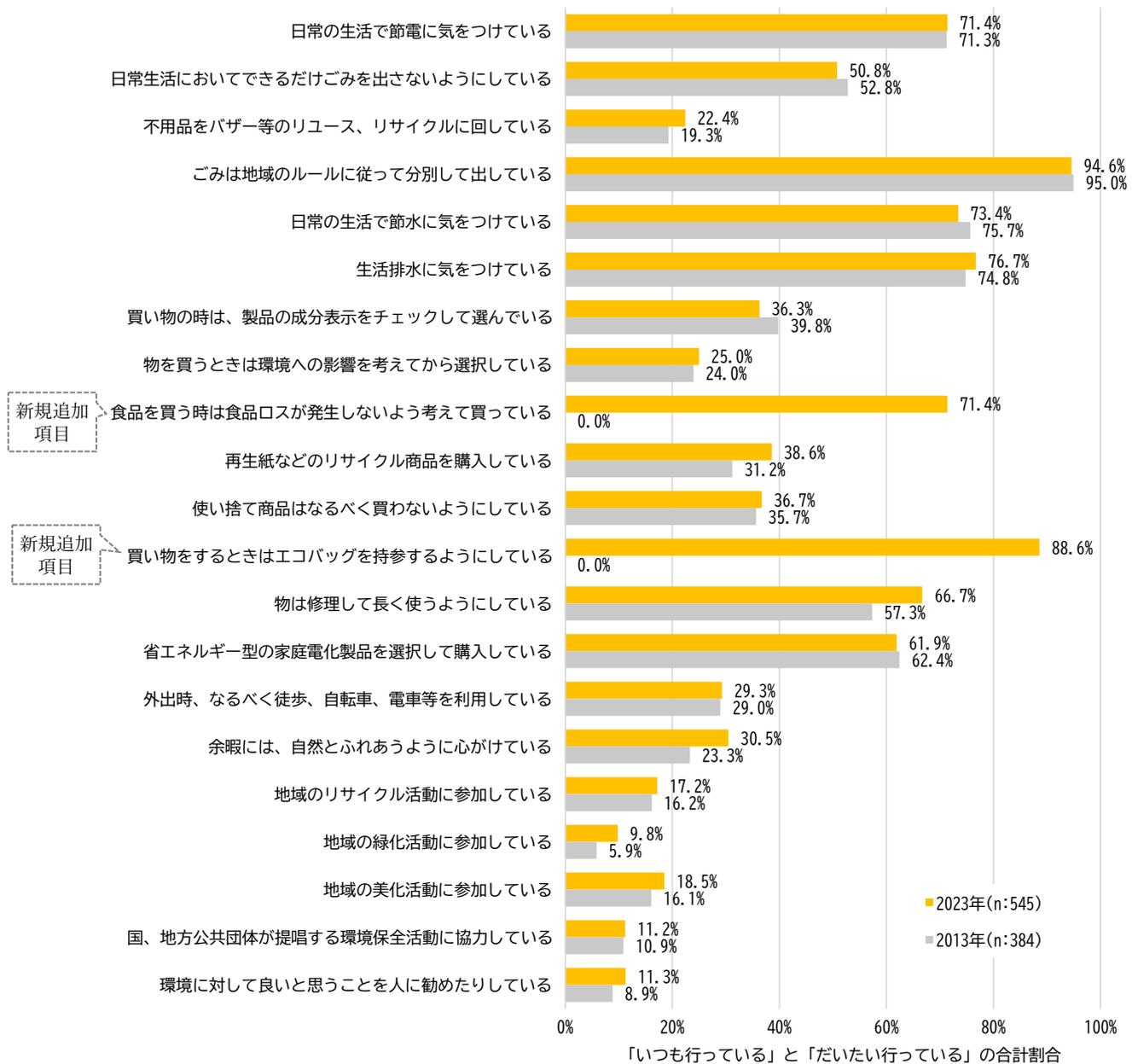
3. 環境問題に対する取り組み状況

問6 「環境に良い取り組み」の実施状況 (SA)

- 環境に良い取り組みについて、「ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにしている」や「買い物をするときはエコバッグを持参するようにしている」は特に徹底して実施されています。
- 「地域のリサイクル活動に参加している」、「地域の緑化活動に参加している」、「地域の美化活動に参加している」、「国、地方公共団体が提唱する環境保全活動に協力している」などの環境保全活動の参加に関する取組は「いつも行っている」と「大体行っている」の割合が他の取組に比べて低くなっています。



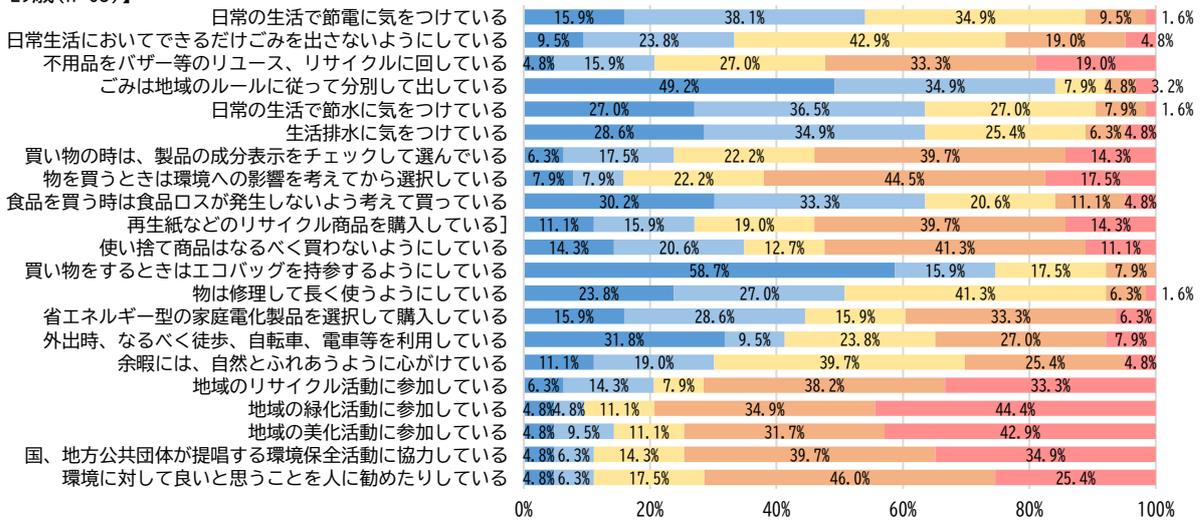
- 2013年と同様に「ごみは地域のルールに従って分別して出している」、「生活排水に気をつけている」、「日常の生活で節水に気をつけている」、「日常の生活で節電に気をつけている」は大きく変わらず、高い頻度で実施されています。
- 2013年と比べて「再生紙などのリサイクル商品を購入している」や「物は修理して長く使うようにしている」、「余暇には、自然とふれあうように心がけている」などが増加しています。



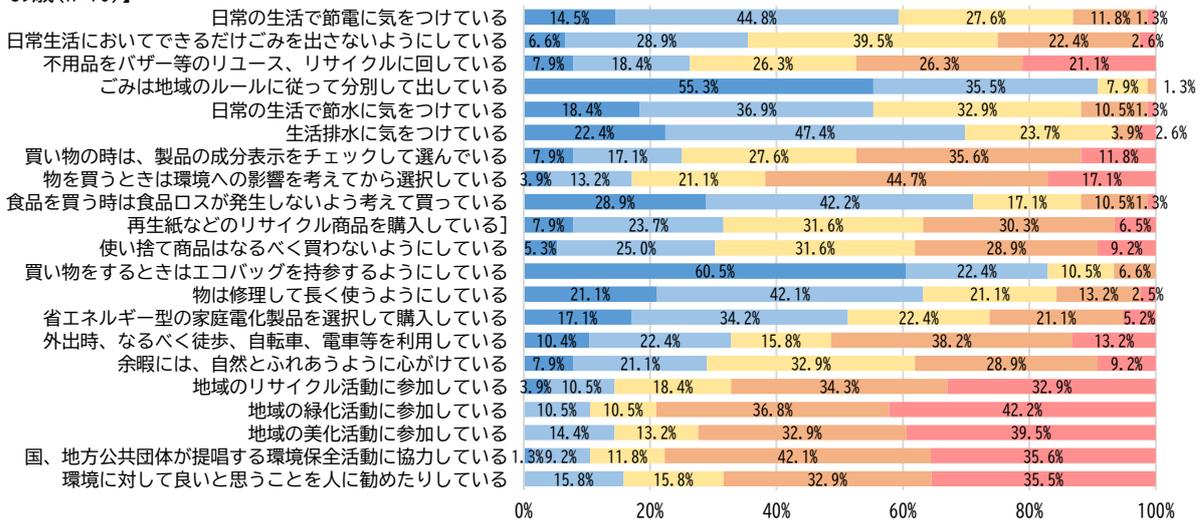
【年齢別の「環境に良い取り組み」の実施状況】

■いつも行っている ■だいたい行っている ■ときどき行っている ■あまり行っていない ■全く行っていない ■無回答

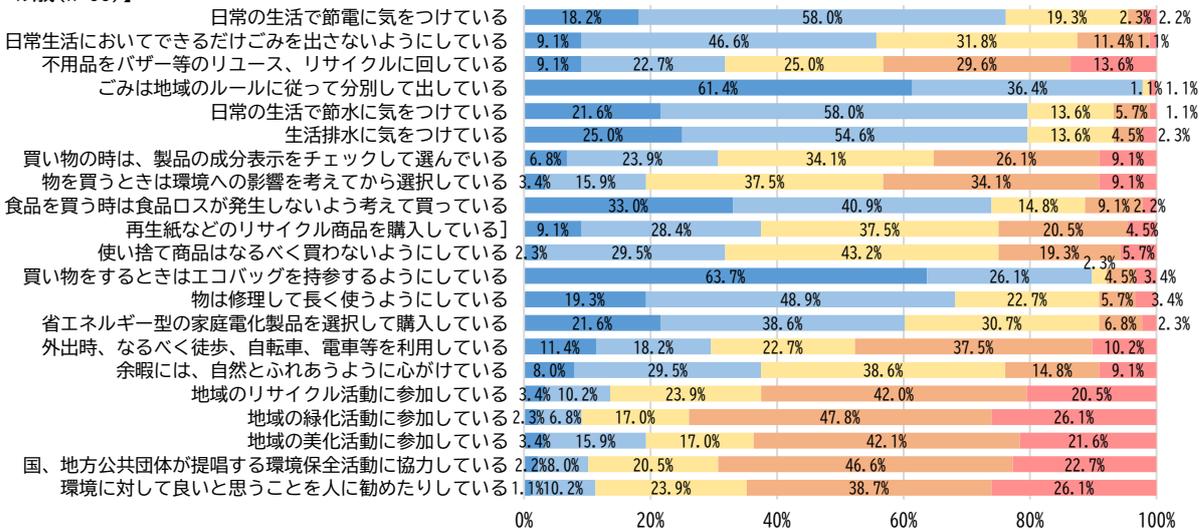
【18～29歳(n:63)】



【30～39歳(n:76)】

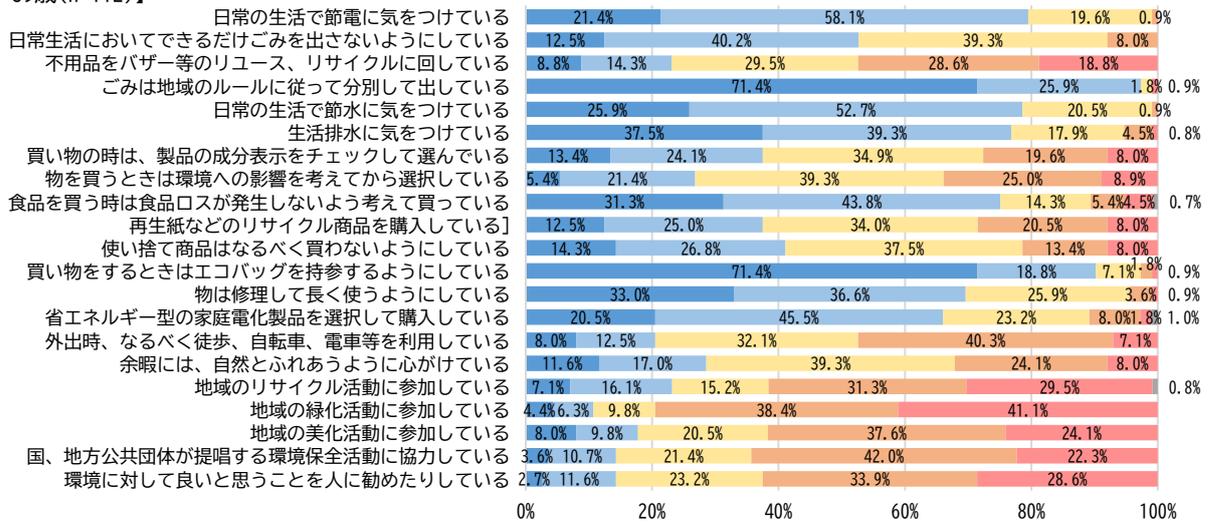


【40～49歳(n:88)】

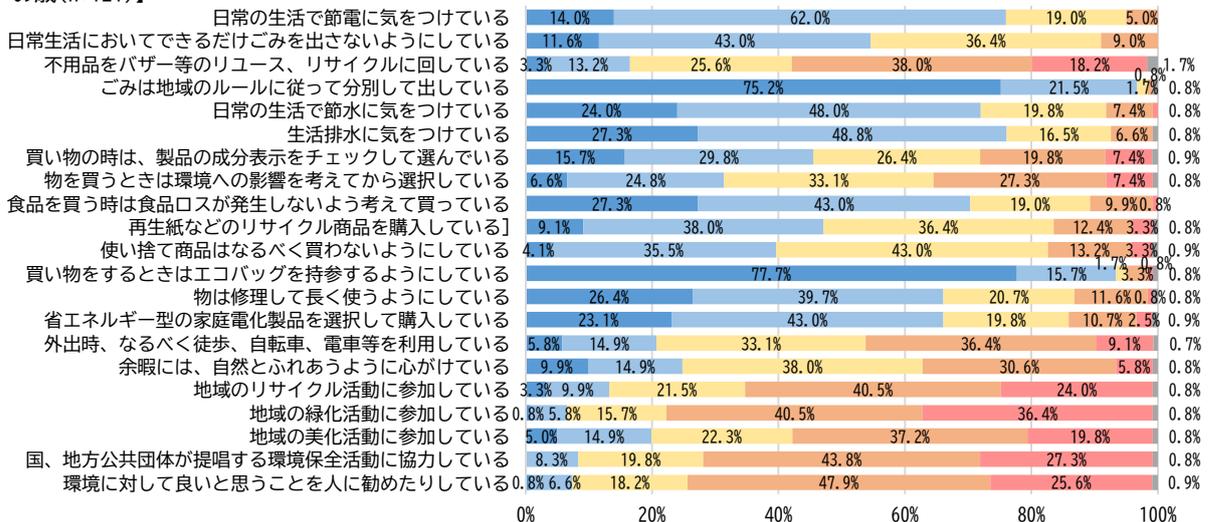


■いつも行っている ■だいたい行っている ■ときどき行っている ■あまり行っていない ■全く行っていない ■無回答

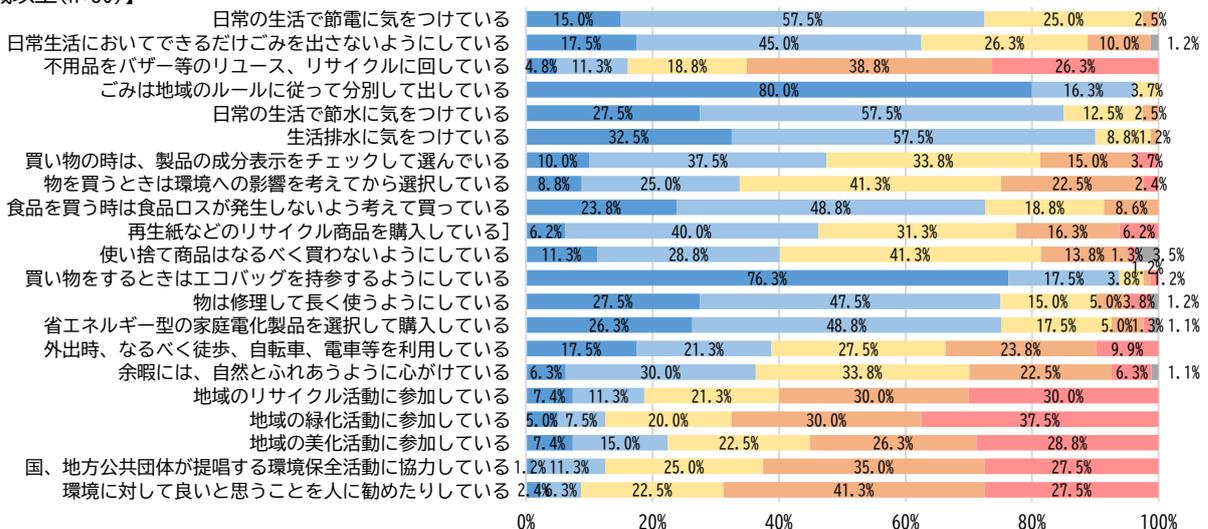
【50～59歳(n:112)】



【60～69歳(n:121)】



【70歳以上(n:80)】



※ 総回答者数 545 名のうち、年齢について無回答とした 5 名は年齢層別の集計結果から除外している。

問7 「環境に良い取り組み」を積極的に行うために必要なこと (MA)

- 全体として「省エネによる光熱費節約やポイントの獲得など、直接的なメリットがあること」や「補助金など、支援制度が使えること」が多く回答されています。
- 直接的なメリットや補助金などの支援があることを、49歳以下の年齢層は特に重視する傾向がみられます。

	全体 (n:545)	18～29歳 (n:63)	30～39歳 (n:76)	40～49歳 (n:88)	50～59歳 (n:112)	60～69歳 (n:121)	70歳以上 (n:80)
大気・水質浄化の状況など、取り組んだ行動の環境保全効果がはっきり分かること	46.6%	31.7%	43.4%	50.0%	54.5%	48.8%	42.5%
省エネによる光熱費節約やポイントの獲得など、直接的なメリットがあること	60.4%	66.7%	73.7%	73.9%	62.5%	52.1%	40.0%
環境保全のマニュアルやチェックリストなど、取組方法についての資料が手に入ること	27.7%	17.5%	21.1%	15.9%	25.9%	39.7%	38.8%
自分達だけでなく、みんなと一緒に取り組む運動として行うこと	32.5%	27.0%	31.6%	31.8%	24.1%	33.9%	47.5%
補助金など、支援制度が使えること	51.0%	55.6%	64.5%	55.7%	47.3%	47.9%	38.8%
表彰制度など、行動の励みとなるものがあること	8.3%	11.1%	9.2%	8.0%	8.9%	3.3%	11.3%
スマホアプリなどを利用して、取り組みやイベントについて簡単に情報の入手、参加ができること	42.8%	49.2%	47.4%	47.7%	47.3%	39.7%	27.5%
その他	0.7%	1.6%	1.3%	0.0%	0.9%	0.0%	1.3%

※ 総回答者数 545 名のうち、年齢について無回答とした 5 名は年齢層別の集計結果から除外している。

問8 近年、環境に配慮した行動をするようになったきっかけ (MA)

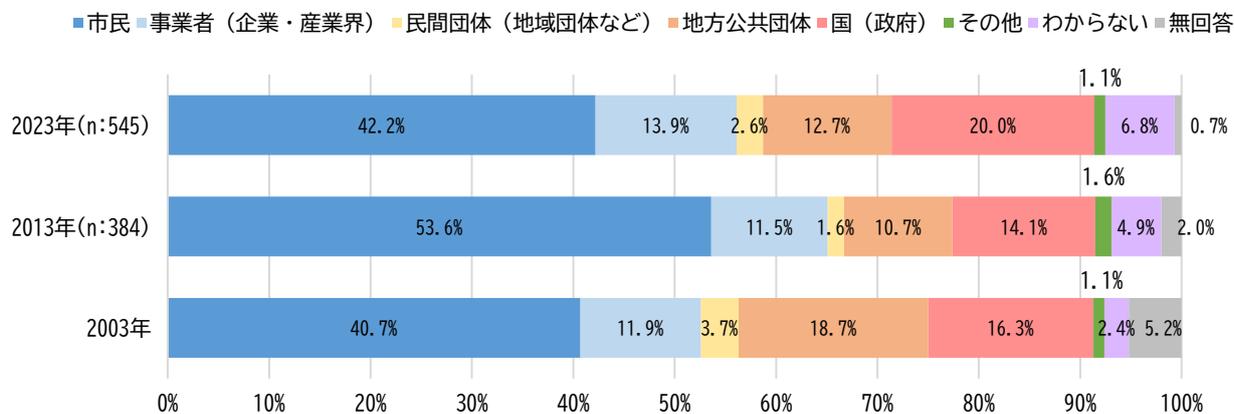
- 年齢によらず「エネルギー価格や物価の上昇などに対する家計の節約」が最も多く回答されています。
- 特に 30～39 歳と 40～49 歳で「エネルギー価格や物価の上昇などに対する家計の節約」の回答割合が他の年齢層に比べ高くなっています。

	全体 (n:545)	18～29歳 (n:63)	30～39歳 (n:76)	40～49歳 (n:88)	50～59歳 (n:112)	60～69歳 (n:121)	70歳以上 (n:80)
エネルギー価格や物価の上昇などに対する家計の節約	63.5%	57.1%	68.4%	72.7%	59.8%	63.6%	58.8%
気候変動やSDGsに関するニュース・報道	49.4%	36.5%	40.8%	51.1%	53.6%	54.5%	52.5%
学校や職場等での環境講座などを受けた	10.8%	17.5%	10.5%	17.0%	9.8%	10.7%	1.3%
環境問題に関するポスター、パンフレット等	8.6%	12.7%	2.6%	10.2%	7.1%	5.8%	16.3%
新型コロナウイルスによる活動場所などの変化	21.5%	22.2%	10.5%	19.3%	19.6%	25.6%	30.0%
環境配慮行動への補助等の金銭的支援	6.4%	3.2%	6.6%	5.7%	5.4%	6.6%	10.0%
特に環境に配慮した行動はしていない	11.9%	12.7%	11.8%	9.1%	8.0%	12.4%	18.8%
その他	1.7%	0.0%	1.3%	1.1%	5.4%	0.8%	0.0%

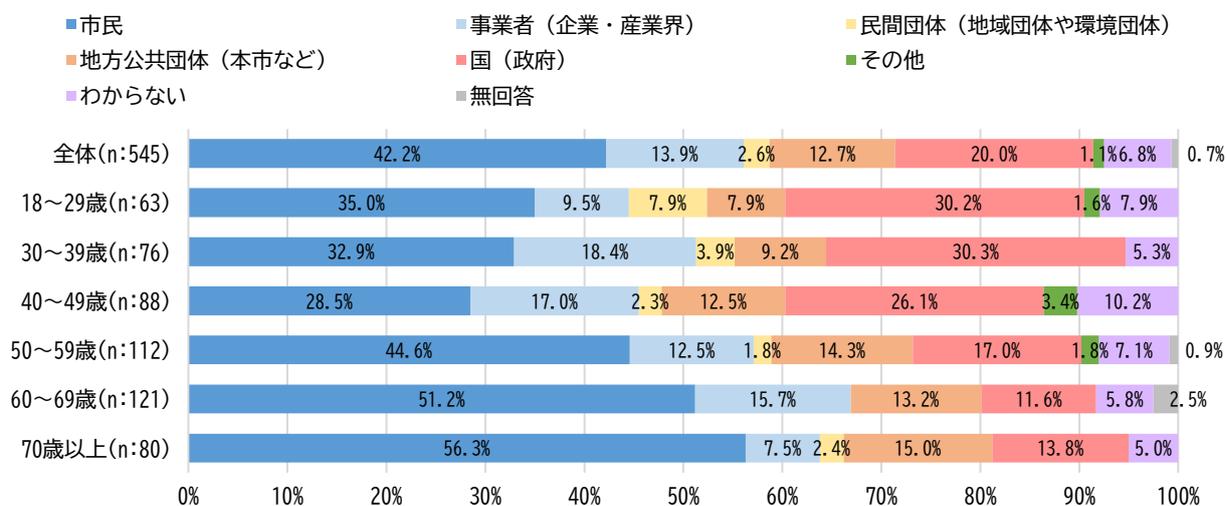
※ 総回答者数 545 名のうち、年齢について無回答とした 5 名は年齢層別の集計結果から除外している。

問9 環境を守る上で最も重要な役割を担う主体 (SA)

- 環境を守る上で最も重要な役割を担う主体として、全体では「市民」が42.2%と最も多く、次いで「国（政府）」が20.0%となっています。
- 2013年と比べて「市民」の割合が減少し、「国（政府）」の割合が増加しています。



- 30～39歳と40～49歳の年齢層では「市民」の回答割合が他の年齢層に比べ、少なくなっています。

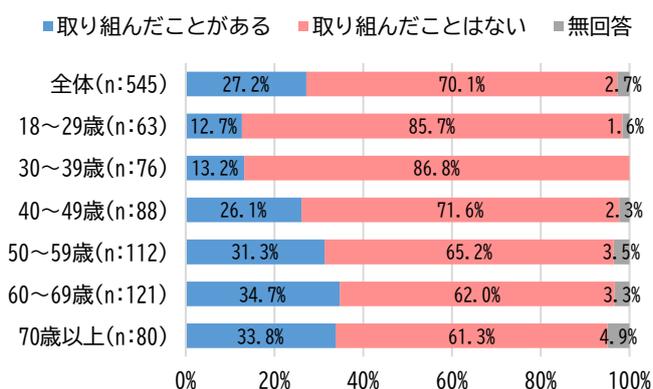
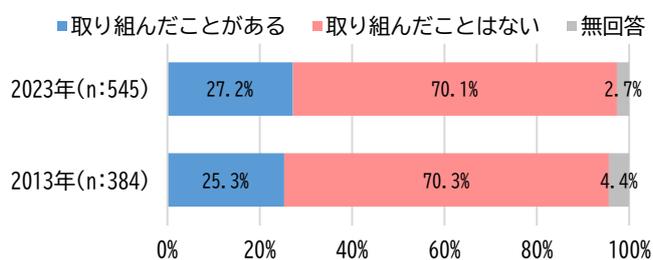


※ 総回答者数 545 名のうち、年齢について無回答とした 5 名は年齢層別の集計結果から除外している。

問 10-1 環境保護団体や地域の団体の環境保全に関する活動への取組経験

取組経験の有無 (SA)

- 環境保護団体や地域の団体の環境保全に関する活動に取り組んだことがある割合は27.2%となっています。
- 2013年と比べて取組経験に大きな変化はありません。
- 18～29歳や30～39歳は他の年齢層に比べて取り組んだことのある割合が少なくなっています。



※ 総回答者数545名のうち、年齢について無回答とした5名は年齢層別の集計結果から除外している。

取り組んだことのある活動領域 (MA)

- 取り組んだことのある活動領域では、「リサイクル・廃棄物」が70.9%と非常に多くなっています。
- 39歳以下の年齢層では「森林の保全・緑化」活動の経験が他の年齢層に比べて多く、40歳以上では「リサイクル・廃棄物」に関する活動経験が多い傾向がみられます。

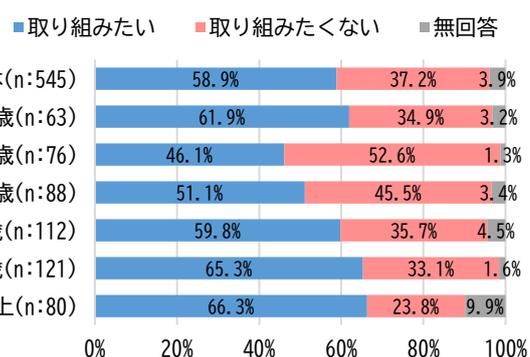
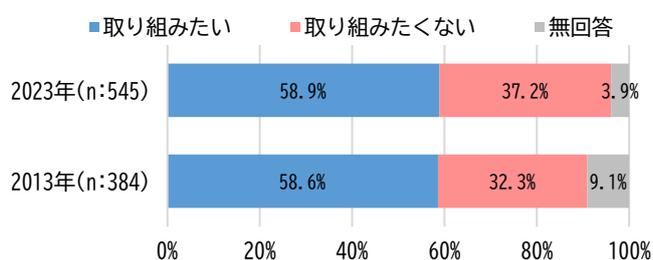
取り組んだことのある活動領域	全体(n:148)	18～29歳(n:8)	30～39歳(n:10)	40～49歳(n:23)	50～59歳(n:35)	60～69歳(n:42)	70歳以上(n:27)
森林の保全・緑化	15.5%	25.0%	60.0%	13.0%	5.7%	16.7%	11.1%
自然保護	8.1%	12.5%	20.0%	8.7%	2.9%	2.4%	14.8%
大気環境保全	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	9.5%	0.0%
水環境保全	4.7%	0.0%	0.0%	13.0%	5.7%	4.8%	0.0%
リサイクル・廃棄物	70.9%	37.5%	50.0%	82.6%	77.1%	71.4%	70.4%
消費・生活	22.3%	0.0%	10.0%	17.4%	20.0%	21.4%	37.0%
環境教育・学習	14.2%	25.0%	40.0%	21.7%	8.6%	11.9%	7.4%
地域環境管理	12.2%	12.5%	10.0%	17.4%	5.7%	11.9%	18.5%
地球温暖化防止	8.1%	12.5%	0.0%	8.7%	2.9%	14.3%	3.7%
生物多様性の保全	4.7%	0.0%	0.0%	4.3%	8.6%	4.8%	3.7%
その他	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	2.4%	7.4%

※ 総回答者数148名のうち、年齢について無回答とした3名は年齢層別の集計結果から除外している。

問 10-2 環境保護団体や地域の団体の環境保全に関する活動への今後の取組意向

今後の取組み意向 (SA)

- 今後の環境保全に関する活動への取組意向では、全体で58.9%が取り組みたいと回答しています。
- 2013年と比べて取り組みたいの割合に大きな変化はありません。
- 年齢層別では問 10-1 で、取組経験が少ない18～29歳で今後取り組みたいとする割合が61.9%である一方で、同様に取組経験の少ない30～39歳では取り組みたいとする割合が46.1%と他の年齢層に比べて少なくなっています。



※ 総回答者数545名のうち、年齢について無回答とした5名は年齢層別の集計結果から除外している。

取り組みたい活動領域 (MA)

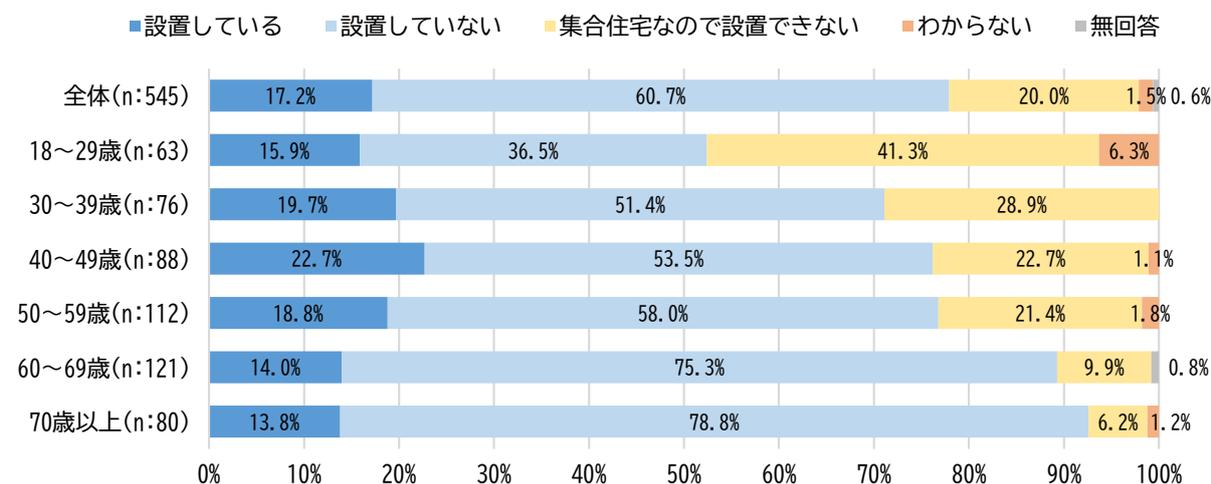
- 取り組みたい活動領域では取組経験の多い「リサイクル・廃棄物」が最も多くなっています。
- 取組経験が少ない活動領域では、今後取り組みたい活動領域として「自然保護」や「消費・生活」が多くなっています。

今後取り組みたい活動領域	全体(n:321)	18～29歳(n:39)	30～39歳(n:35)	40～49歳(n:45)	50～59歳(n:67)	60～69歳(n:79)	70歳以上(n:53)
森林の保全・緑化	29.6%	43.6%	37.1%	33.3%	25.4%	27.8%	20.8%
自然保護	41.4%	46.2%	34.3%	44.4%	40.3%	39.2%	45.3%
大気環境保全	9.0%	10.3%	11.4%	6.7%	7.5%	7.6%	11.3%
水環境保全	14.0%	17.9%	14.3%	17.8%	9.0%	12.7%	15.1%
リサイクル・廃棄物	51.4%	41.0%	57.1%	51.1%	44.8%	55.7%	58.5%
消費・生活	38.0%	35.9%	37.1%	31.1%	35.8%	35.4%	52.8%
環境教育・学習	15.6%	23.1%	25.7%	24.4%	9.0%	17.7%	0.0%
地域環境管理	11.8%	12.8%	14.3%	11.1%	10.4%	8.9%	15.1%
地球温暖化防止	24.9%	25.6%	20.0%	28.9%	26.9%	25.3%	20.8%
生物多様性の保全	13.4%	20.5%	17.1%	11.1%	13.4%	15.2%	5.7%
その他	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	1.9%

※ 総回答者数321名のうち、年齢について無回答とした3名は年齢層別の集計結果から除外している。

問 11 自宅での太陽光発電設備の設置状況 (SA)

- 全体で 17.2%が自宅で太陽光発電設備を設置している状況です。
- 年齢別では 30～39 歳と 40～49 歳の年齢層が他の年齢層と比べて設置している割合が高くなっています。
- 18～29 歳の年齢層では「集合住宅なので設置できない」とする割合が高くなっています。



※ 総回答者数 545 名のうち、年齢について無回答とした 5 名は年齢層別の集計結果から除外している。

問 12 次世代自動車の保有状況 (MA)

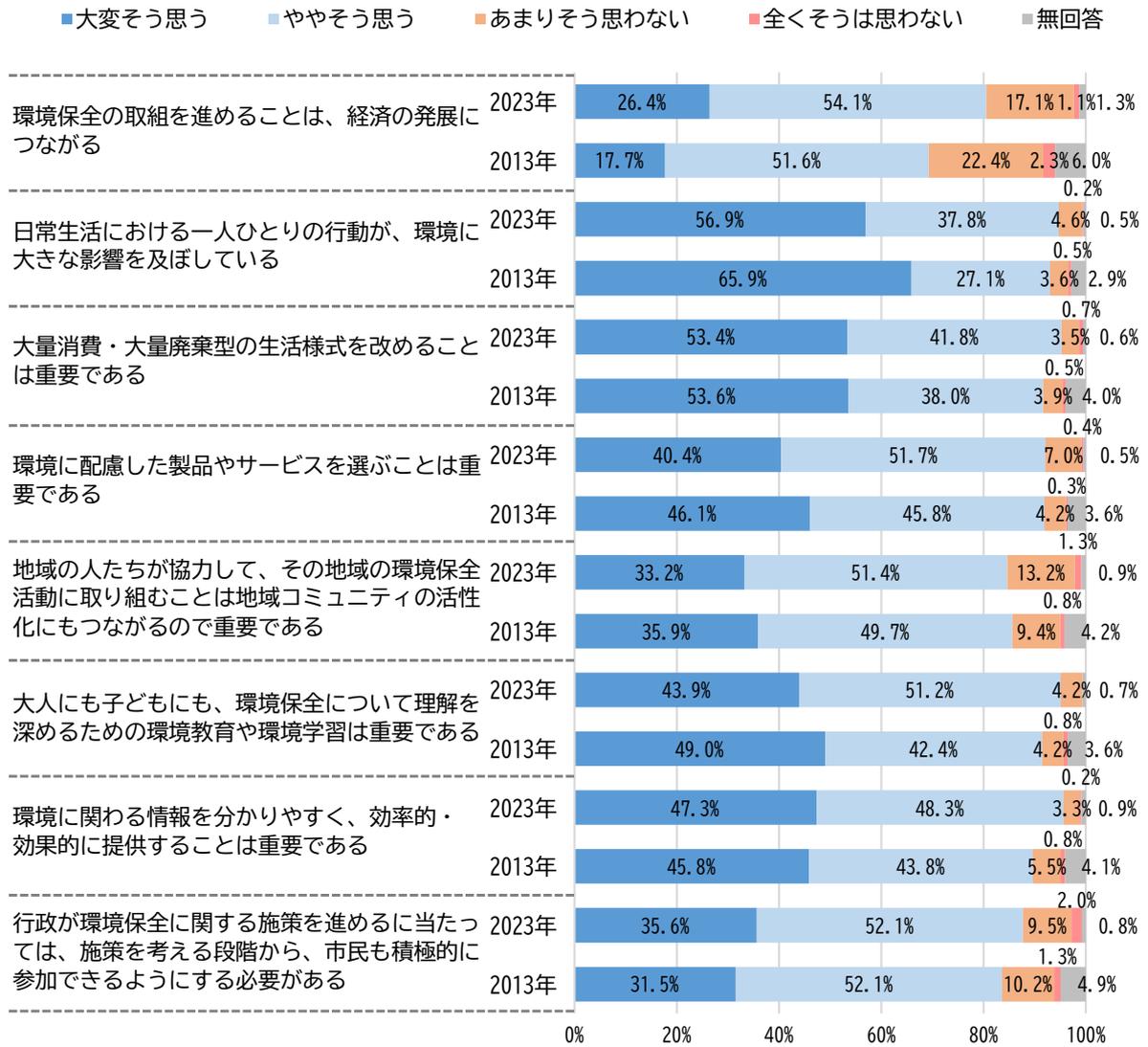
- 次世代自動車のうち、ハイブリッド自動車を保有している割合が全体で 35.6%と最も多くなっています。
- プラグインハイブリッド自動車や燃料電池自動車、電気自動車の保有割合は全体で 5%を下回っています。

	全体 (n:545)	18～29歳 (n:63)	30～39歳 (n:76)	40～49歳 (n:88)	50～59歳 (n:112)	60～69歳 (n:121)	70歳以上 (n:80)
プラグインハイブリッド自動車 (PHV)	2.6%	0.0%	1.3%	2.3%	1.8%	5.8%	2.5%
ハイブリッド自動車 (HV)	35.6%	34.9%	26.3%	33.0%	34.8%	43.0%	36.3%
燃料電池自動車 (水素自動車、FCV)	0.4%	1.6%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%
電気自動車 (EV)	2.0%	3.2%	1.3%	3.4%	0.9%	2.5%	1.3%
次世代自動車を保有していない	56.5%	65.1%	68.4%	60.2%	58.0%	47.1%	50.0%

※ 総回答者数 545 名のうち、年齢について無回答とした 5 名は年齢層別の集計結果から除外している。

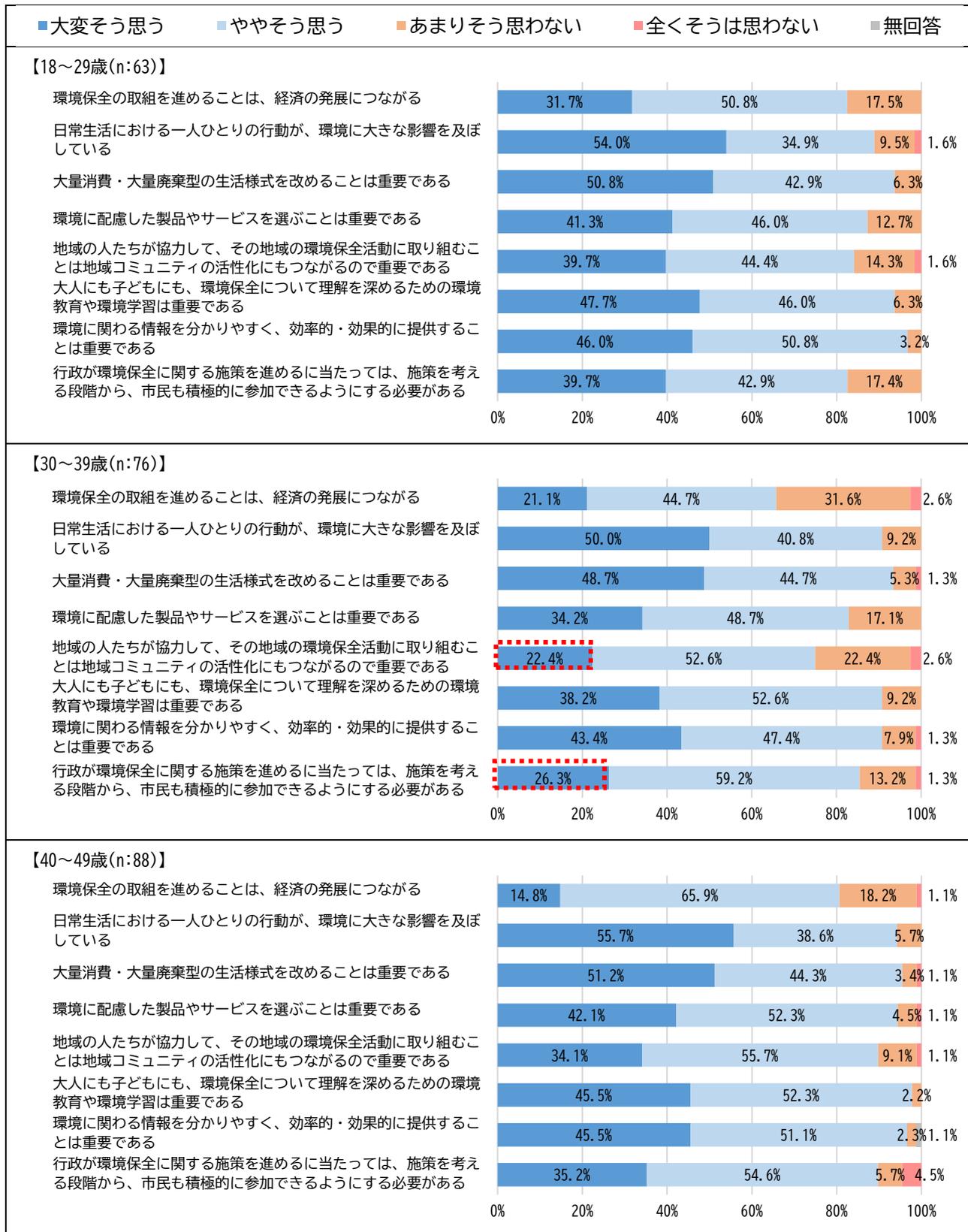
問 13 環境問題に対する考えや意見 (SA)

- 「日常生活における一人ひとりの行動が、環境に大きな影響を及ぼしている」や「大量消費・大量廃棄型の生活様式を改めることは重要である」は「大変そう思う」の割合が高くなっています。
- 「環境保全の取組を進めることは、経済の発展につながる」や「地域の人たちが協力して、その地域の環境保全活動に取り組むことは地域コミュニティの活性化にもつながるので重要である」、「行政が環境保全に関する施策を進めるに当たっては、施策を考える段階から、市民も積極的に参加できるようにする必要がある」は「大変そう思う」の割合が低くなっています。



- 年齢層別では、特に 30～39 歳の年齢層が他の年齢層に比べて、地域・市民の活動参加の重要性に対して「大変そう思う」の割合が低いです。

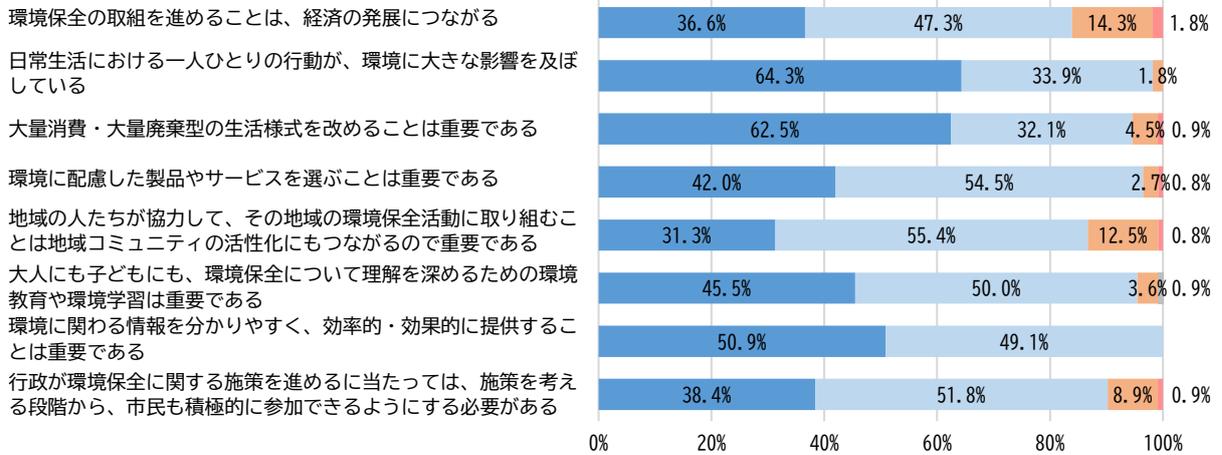
【年齢別の環境問題に対する考えや意見】



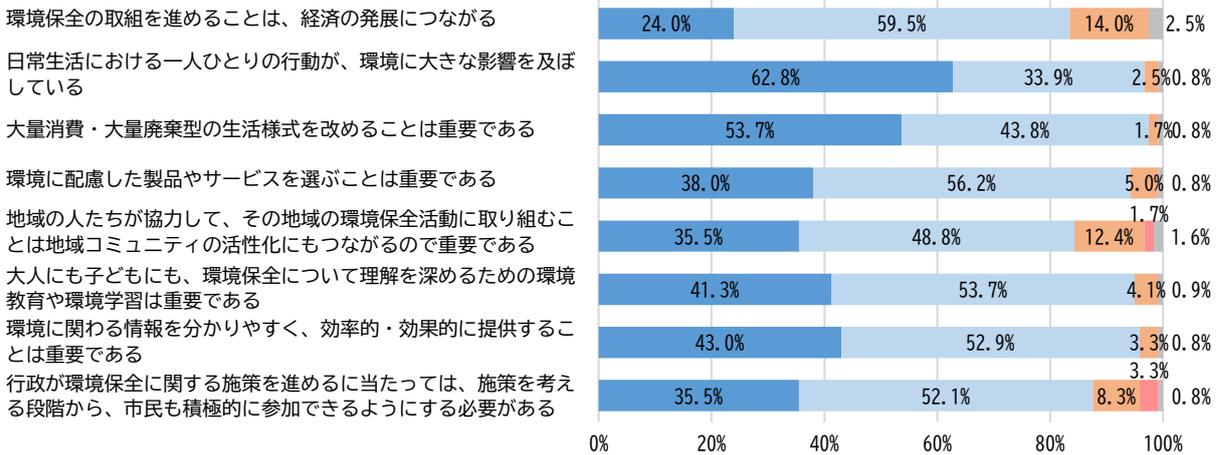
※ 年齢が無回答の 5 名については、年齢別の集計結果を記載していない。

■大変そう思う ■ややそう思う ■あまりそう思わない ■全くそうは思わない ■無回答

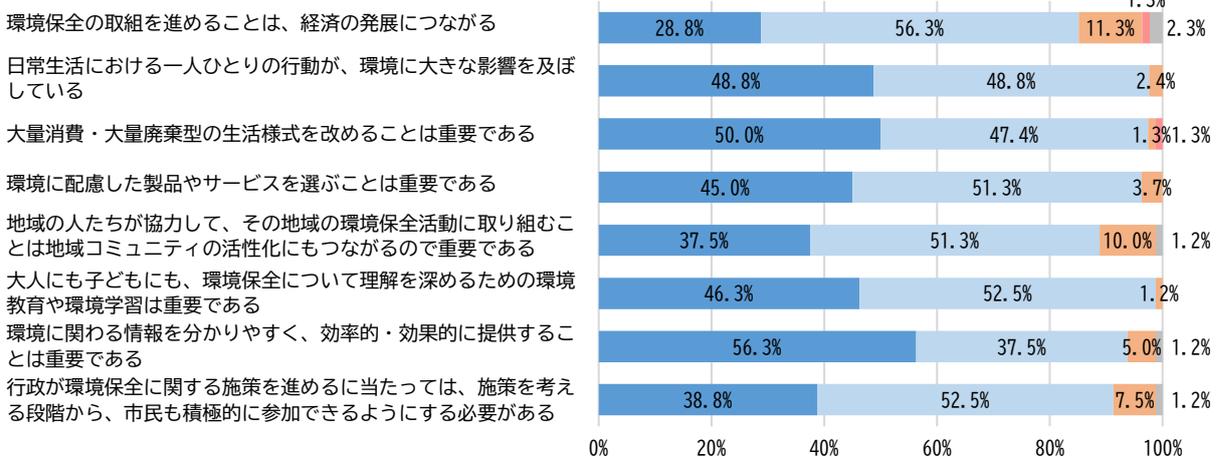
【50～59歳(n:112)】



【60～69歳(n:121)】



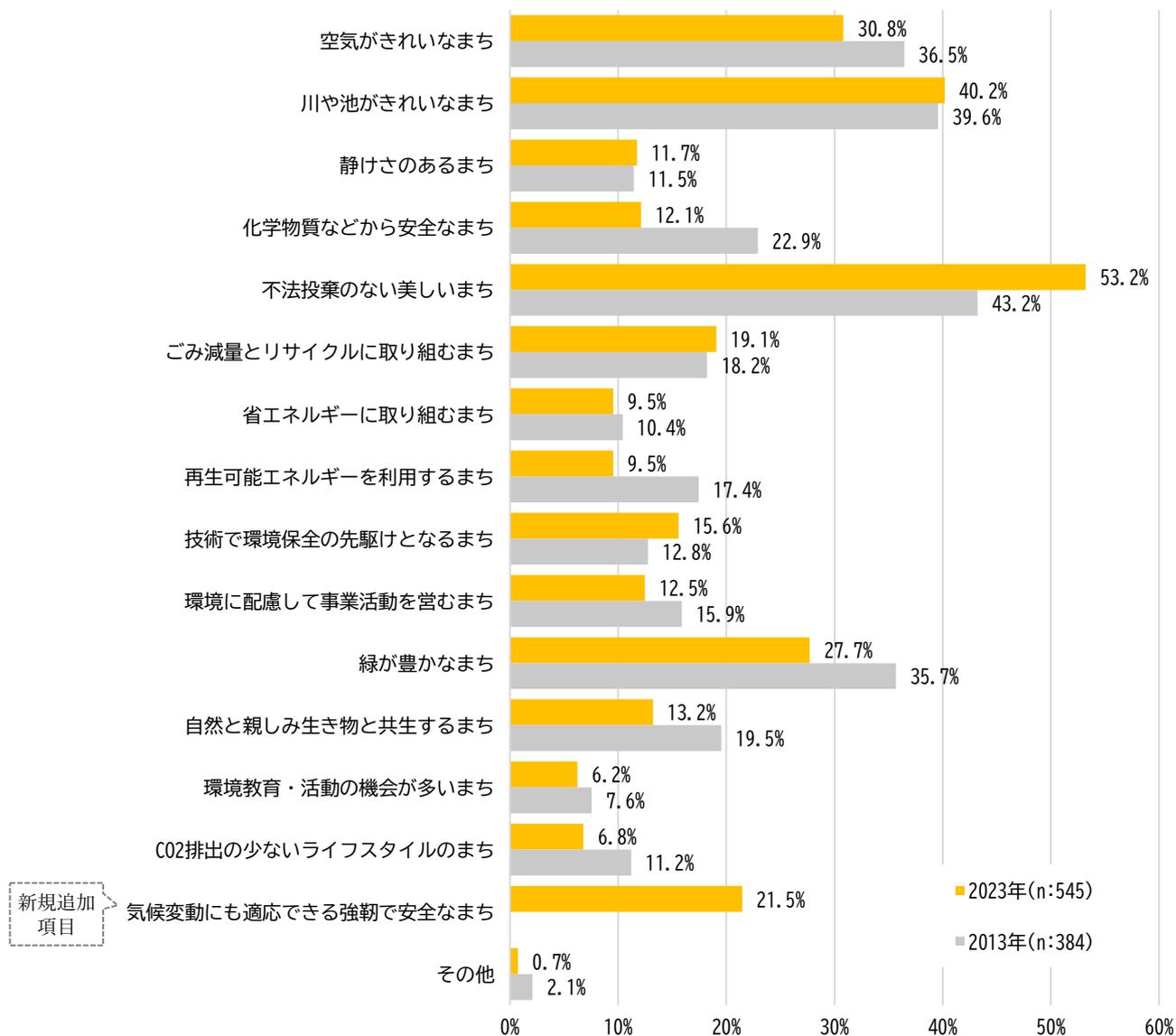
【70歳以上(n:80)】



※ 年齢が無回答の5名については、年齢別の集計結果を記載していない。

問 14 市に期待する将来の環境像 (MA：最大で3つまで)

- 将来の環境像では全体として「不法投棄のない美しいまち」が53.2%、「川や池がきれいなまち」が40.2%、「空気がきれいなまち」が30.8%と回答が多くみられました。
- 2013年と比べて「不法投棄のない美しいまち」が増加しており、「化学物質などから安全なまち」や「空気がきれいなまち」、「緑が豊かなまち」が減少しています。



- 49歳以下の年齢層では「空気がきれいなまち」が多く回答されています。

	全体 (n:545)	18~29歳 (n:63)	30~39歳 (n:76)	40~49歳 (n:88)	50~59歳 (n:112)	60~69歳 (n:121)	70歳以上 (n:80)
空気がきれいなまち	30.8%	47.6%	40.8%	42.0%	22.3%	20.7%	25.0%
川や池がきれいなまち	40.2%	39.7%	34.2%	52.3%	35.7%	39.7%	41.3%
静けさのあるまち	11.7%	14.3%	15.8%	17.0%	10.7%	8.3%	7.5%
化学物質や放射性物質などから安全なまち	12.1%	14.3%	13.2%	10.2%	8.0%	13.2%	16.3%
不法投棄やポイ捨てのない美しいまち	53.2%	47.6%	52.6%	48.9%	56.3%	56.2%	56.3%
ごみの減量とリサイクルに市民が率先して取り組むまち	19.1%	9.5%	13.2%	14.8%	20.5%	26.4%	25.0%
省エネルギーに取り組むまち	9.5%	3.2%	10.5%	9.1%	14.3%	9.1%	8.8%
太陽光などの再生可能エネルギーを積極的に利用するまち	9.5%	7.9%	7.9%	8.0%	15.2%	9.9%	6.3%
最先端技術で環境保全の先駆けとなるまち	15.6%	19.0%	19.7%	12.5%	18.8%	11.6%	13.8%
事業所が積極的に環境に配慮して事業活動を営むまち	12.5%	9.5%	10.5%	8.0%	17.9%	12.4%	15.0%
緑が豊かなまち	27.7%	20.6%	28.9%	34.1%	25.9%	28.9%	27.5%
自然と親しみ、生き物と共生するまち	13.2%	14.3%	15.8%	8.0%	14.3%	14.9%	12.5%
環境について学んだり、環境保全活動に参加したりする機会の多いまち	6.2%	1.6%	3.9%	2.3%	8.0%	7.4%	12.5%
二酸化炭素排出の少ない地球にやさしいライフスタイルが浸透したまち	6.8%	4.8%	2.6%	5.7%	3.6%	11.6%	11.3%
気候変動による影響にも適応できる強靱で安全なまち	21.5%	22.2%	19.7%	15.9%	25.0%	24.8%	20.0%
その他	0.7%	0.0%	1.3%	0.0%	1.8%	0.8%	0.0%

※ 総回答者数 545 名のうち、年齢について無回答とした 5 名は年齢層別の集計結果から除外している。